

経済・金融 フラッシュ

タイ 10-12 月期GDP: 前年同期比▲9.0% ～大洪水は当初の予想以上に深刻

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 洪水被害は当初の予想以上に深刻

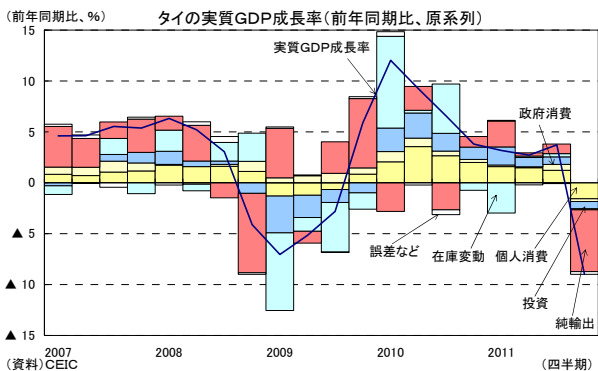
タイの国家経済社会開発委員会事務局（NESDB）は2月20日に2011年10-12月期の国内総生産（GDP）を公表した。実質GDP成長率は前年同期比（原系列）で▲9.0%となり、2011年後半に発生した大洪水の影響により成長が大幅に悪化した（7-9月期は同+3.7%）。この結果、2011年通年では前年比+0.1%となり、ほぼゼロ成長となった。また、10-12月期の成長は前期比年率（季節調整値）で▲10.7%であった。

成長の内訳を需要項目別に見ると（図表1）、すべての項目が前年同期比で減少している。なかでもとりわけ外需の低迷は著しく、輸出が前年同期比▲6.5%と減少する一方で、輸入は同+2.9%と増加したため、純輸出では成長への寄与で▲6.1%ポイントと大幅なマイナスを記録した。内需についても、個人消費が前年同期比▲3.0%、政府消費が同▲3.1%、投資が同▲3.6%とすべての項目でマイナス成長となった。

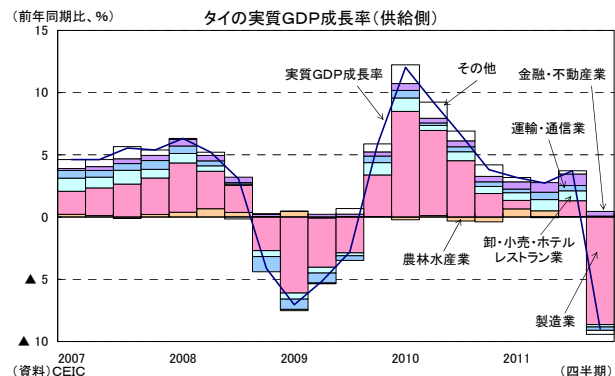
供給項目別（図表2）に見ると、成長の原動力である製造業が前年同期比▲21.8%と急減速しており、これが成長停滞の主因であることが分かる。製造業がGDPに占めるシェアは39%と大きく、サービス業のうち金融業など一部では前年同期比でプラスを維持したものの¹、成長の下支えとはならなかった。

通年ではほぼゼロ成長という結果は、昨年後半から今年前半に予想されていた数値より悪く²、洪水被害が予想以上に深刻だったことを端的に示す結果となった。

（図表1）



（図表2）



¹ 金融業が前年同期比で+10.2%、卸・小売業が同+0.2%、健康・福祉が同+1.1%などプラス成長であった。一部のサービス業の他、農林水産業が前年同期比+0.7%とプラス成長であった。

² NESDBは2011年の成長率を1.5%（2011年11月時点）、中央銀行は1.0%（2012年1月時点）と予想していた。

2. 現在、復旧も順調に進んでいる

大洪水が経済活動に与えた影響は当初の予想以上であったが、現在では順調に回復が進んでいると言える。鉱工業生産指数を見ると（図表3）、洪水が生産活動に最も影響を与えたのは昨年11月であり、11月の鉱工業生産は前年同期比で▲47.2%と、前年の約半分の生産量であった。12月も低迷しているものの、前年同月比で▲25.8%まで回復しており、前月比では+37.9%となり回復軌道に乗っていると言える。品目別にはラジオ・テレビ・通信機器やハードディスクドライブ（HDD）などの事務用機器については生産が滞ったままだが、家具や化学製品、飲食製品など前年同期と比べてプラス成長に転じた品目も見られる。

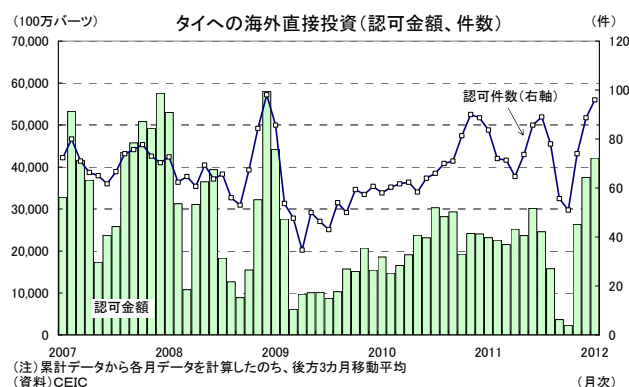
洪水被害によって、一部の産業ではタイでの生産活動から撤退したり、タイでの事業活動を控える動きが生じたりする可能性が懸念されたが、現在のところ投資活動も順調に回復していると言える（図表4）。NESDBは製造業の回復ペースが想定より速く、加えて、復興需要も生じるため、2012年は年後半以降、再び成長が加速すると見込んでいる。また、政府の復興に関するインフラ投資計画も内需の拡大要因となるとしている³。こうした状況を踏まえて、NESDBは具体的に2012年通年で5.5-6.5%の成長を達成すると予測している。

（図表3）

品目	(ウェイト)	2011年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
総合(季節調整済、前月比)	(100.0)	▲4.1	5.8	▲4.1	▲29.5	▲23.5	37.9
総合(原系列、前年同期比)	(100.0)	▲0.7	6.8	▲0.3	▲30.1	▲47.2	▲25.8
飲食製品	(15.5)	6.1	9.2	15.6	▲5.7	1.8	9.0
ラジオ・テレビ・通信機器	(10.7)	▲14.3	▲13.6	▲10.4	▲46.1	▲73.0	▲56.9
石油精製	(10.4)	2.3	4.5	▲8.0	▲17.4	▲10.3	3.3
家具など	(7.5)	6.4	13.8	6.2	▲20.0	▲21.9	17.8
織物	(7.3)	▲20.1	▲24.7	▲25.4	▲35.0	▲46.5	▲34.0
事務用機器	(7.2)	6.1	17.3	▲6.9	▲32.4	▲77.2	▲55.7
(うちHDD)	(4.6)	(6.4)	(17.8)	(▲6.6)	(▲32.2)	(▲77.1)	(▲55.7)
衣類	(7.1)	▲32.6	▲23.0	▲23.6	▲31.0	▲34.4	▲15.9
輸送用機械	(5.4)	0.0	15.5	28.2	▲66.1	▲84.0	▲30.4
非金属製品	(4.8)	3.6	7.6	3.3	▲7.1	▲11.5	▲1.8
化学製品	(4.4)	▲6.8	▲1.6	▲0.6	▲19.7	▲16.5	11.7
革製品	(4.2)	▲1.9	1.5	▲7.0	▲31.8	▲36.0	▲27.7
ゴム・プラスチック製品	(4.0)	3.6	13.3	10.2	▲1.9	▲9.4	▲8.0

(注)ウェイトで4%以上の産業のみ記載
(資料)OIE

（図表4）



(注)累計データから各月データを計算したのち、後方3カ月移動平均
(資料)CEIC

現在のところ、洪水被害から順調に復旧が進んでいるタイ経済ではあるが、タイはもともと輸出主導型の経済であり、外需の環境は先進国の景気減速により厳しい状況である。上述したようにラジオ・テレビ・通信機器やHDDなどの機械、自動車などの輸送用機器の生産はまだ本格的な復旧に至っておらず、こうした財の生産量は外需の動向によっても変化する。2012年以降は、こうした産業がどこまで生産を回復できるかについて、しばらく様子を見ていく必要があるだろう。

³ 洪水被害を受け、長期的な投資計画を行う機関として政府が設立した委員会に復興戦略・国家建設委員会（SCRF）と水資源管理戦略委員会（SCWRM）がある。NESDBによれば、SCRFは2012年から2016年までで2.65兆パーツのインフラ投資計画（SCWRMによる3400億パーツ規模の治水事業を含む）を承認したことに言及している。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。